照葉樹林文化研究会ニュースレターＮｏ１．

２００８年1月１５日

照葉樹林文化研究会
発行元　大阪府堺市中区学園町１－１　大阪府立大学内
代表世話人　山口裕文（大阪府立大学）

照葉樹林文化研究会２００７は、「国際花と緑の博覧会記念協会」の助成を受け、2007 年 11 月 3 日（土）13 時より大阪府立大学生命環境科学研究科において開催されました。研究会会員ほか４５名の参加がありました。内容は次のとおりです。夕刻には、中尾佐助先生の卒業生を交えた交流会が行われました。研究発表の内容は、順次照葉樹林文化研究あるいは照葉樹林文化研究会ニュースレターで公開されます。

研究会２００７

1)　中尾佐助スライドの検討　（世話人一同）
　スライドデータベース構築の現状と混入スライドの取り扱い
　東南アジアとニューギニアの探検スライドにみる植物文化

２）　特別講演：照葉樹林帯におけるタケの遺伝学
　村松幹夫（岡山大学・名誉教授）

３）　研究発表会
　照葉樹林文化と忘れられた三木成夫の内臓感覚
　金子　務（大阪府立大学・名誉教授）
　陰陽五行にもとづく居宅と庭―『営造宅経』・『作庭記』を中心として
　水野杏紀（大阪府立大学人間社会学研究科）
　『稲作の起源』にみられる中尾著作の引用について
　山口裕文（大阪府立大学生命環境科学研究科）

４）研究フラッシュ　（参加者）
　台湾固有の雑穀タイワンアブラススキ　竹井恵美子（大阪学院大学）

研究発表要旨

【要旨１】台湾固有の雑穀　タイワンアブラススキ
　発表者：竹井恵美子（大阪学院短期大学）・林麗英（龍谷大学大学院国際文化学研究科）

2007 年５月、台湾南部の屏東県においてルカイ、パイワン両民族によって larumai あるいは lumai と呼ばれる栽培植物を収集した。この植物は台湾固有種のタイワンアブラススキ（*Spodiopogon formosanus* Rendl.）と同定され、かつては台湾の山地の先住民によって広く栽培されていたことがあきらかになった。その後の調査で、現在も南部の一部の地域に栽培が残っていることを確認した。この植物は、日本統治時代に植物学的に記載されていたにもかかわらず、民族学・人類学の報告書でヒエやキビと誤認記載されてきたこともあり、その存在が無視されてきた。近縁野生種のアブラススキ（*Spodiopogon cotulifer* (Thumb.)Hack.）は、台湾、日本を含む東アジアに広く分布し、日本でもやや攪乱された林縁や河原に自生が見られる。今後、祖先野生種の解明をはじめ、台湾独自の栽培植物としてドメスティケーションの過程をあきらかにしていきたい。

会員情報

山野美賛子さん　「書誌年鑑２００７」(中西裕編　日外アソシエーツ　４９３ページ) に　中尾佐助　『照葉樹林文化論　中尾佐助著作集６』を発表されました。